



小 学校だより 10月号

横浜市立瀬谷さくら小学校

校長 場家 誠

学校教育目標 「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」

(知) 困難なことにもあきらめずに挑戦する子に育てます。

(徳) 物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子に育てます。

(体) 自分や人の命を大切にできる子に育てます。

(公) 小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子に育てます。

(開) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子に育てます。

「何でもかんでも、何でって思う」

副校長 阪元 秀一

夏休みが終わって1ヶ月ほどが経ちました。みなさん夏はどのように過ごされましたか。阪元は実家にも帰らず、大したお出かけもせず、サブスクでドラマを一気見したり、東野圭吾を読んだり、だらだらと、それなりに有意義に過ごした夏休みでした。そんな夏休みに思ったことを、つれづれなるままに書いていきたいと思います。

一つ目は「命」です。夏休みには命について考えようと思っています。「やまゆり園」の事件から10年になりました。初任で重度重複障害の児童を担任し、その後も特別支援教育に長く携わってきた私にとってはかなり重い事件でした。犯人への強い憤りはもちろん、無力感、失望感もありました。家族や関係者の思いをTVや新聞などのメディアを通して、また、改めて考えることができました。大きな災害もありました。熊本地震や千葉豪雨。多くの命が犠牲になりました。そして、何より、命を考えるうえで、夏は戦争や原爆について考える良い機会だと思っています。

戦後81年、戦争経験者が全人口の5%を切ったそうです。私が小学生の頃は、夏休みの登校日に「原爆のパネル展」がありました。町内会で知覧にある「特攻遺品館」に行ったり、高校の修学旅行で長崎の「原爆資料館」を見たり、ただただ戦争は「怖い」「嫌だな」と思っていました。近所には「人間魚雷回天訓練之地石碑」というものが立っていて、当時は意味も分からず、「壘田永年私財法」のように言えることで満足していました。さすがに、50歳を過ぎると意味も分かります。

今の子どもたちはどのくらい戦争や原爆について考えるのでしょうか。先日、我が子が高校の修学旅行で沖縄へ行きました。事前学習も含めて、それなりに戦争について考えたようでした。阪元も「はだしのゲン」や「この世界の片隅に」をすすめたり、新聞記事で「広島市長談話」と「首相メッセージ」「児童のスピーチ」を読み比べたりさせました。戦争経験なしに戦争について考えることは大変ですが、大切なことです。実際に経験した人や物を通して、戦争を考え、命を考えることは大切なことです。ネットやAIも活用できます。それは今の子どもたちにとって、有用なツールです。使いこなして、取捨選択し、指示を出せる人になってほしいです。そして、私たちはきっかけを与えられる存在になりたいです。

本校でも、9月11日(金)5年生で「赤ちゃんふれあい教室」がありました。赤ちゃんとの触れ合いを通して、命の大切さをそれぞれ感じ、考えることの多い学習になりました。この学習が毎年夏休み明けのこの時期に続いていることは本校の強みです。子ども達は発想を広げ、赤ちゃんに対してはもちろん、育児をしている方や妊婦の方にだけでなく、自分自身のこと、両親のこと、家族のこと、様々な感想が見られました。ぜひ、命を大切にできる人になってほしいです。

二つ目。この夏は「何で」と考えることが多くなったなあと感じました。私は元々そういう子だったのかもしれませんが、この夏、妻に「何で何で言うねえ」と指摘されたのです。「何で」と思うたびにAIに聞いて過ごしました。周辺機器の環境が豊かになったのかもしれませんが。「何で鎌倉幕府の成立は1192年(いいくに)ではなくなりつつあるんだろう」「じゃあ、何で室町幕府や江戸幕府はそういう議論にならないんだろう」AIはそういうことを解決してくれるいい相棒です。AIは間違えることもありますし、相手(この場合は阪元)の好みに合った回答もします。モヤッとするときもあります。それを十分分かった上で、話をするには心地よいです。AIを育てる意識です。いっしょに育つ意識です。まずは、何でもかんでも、何でって言うてみたらいいなと思いました。大人は少し困るかもしれませんが、一緒に育つチャンスです。子どもに「何でだと思う?」って聞いたっていいんです。知らなければ、想像上はすべてが正解です。○なのです。

追伸、運動会の足音が聞こえてきました。過程をほめる。本番までの連日の頑張りを応援してください!